

株主のみなさまへ

平素は格別のご高配を賜り厚く御礼申しあげます。

ここに第119期（自 2018年4月1日 至 2019年3月31日）の報告書をお届けするにあたりまして、ご挨拶申しあげます。

当社は、2015年10月に発表した経営方針の中で、当社が目指すビジネスモデルとして、ICTを活用することでお客様とともに課題を解決し、新たな価値を生む「つながるサービス」の拡大を掲げており、現在に至るまで、経営資源を当社のコア事業であるテクノロジーソリューションに集中する「形を変える」変革およびテクノロジーソリューションの事業内容を進化させ成長を目指す「質を変える」変革を進めてまいりました。



特に、ユビキタスソリューションおよびデバイスソリューションについては、主要ビジネスであるパソコン、携帯電話、一部半導体事業等を独立事業として切り出すなど、着実に変革を実行してまいりました。

また、ドイツの工場の閉鎖を含む欧州事業再編、AIビジネス推進のための新会社の事業開始、次世代型通信である5Gに関するエリクソン社との提携などの施策にも着手しております。

これらの変革を行うなか、当期の業績については、ビジネスモデル変革等の特殊要因の影響を受け、前期に比べて減益となりましたが、国内サービスをはじめとする本業については、増益となりました。当期の業績の詳細につきましては、当報告書の4ページをご覧ください。

当期の年間配当については、年初計画のとおり、150円（2018年10月1日付の株式会社併合に伴い、中間配当7円を10倍として計算しております。）とさせていただきます。

これまでの「質を変える」変革は途半ばであり、今後はこの変革をさらに加速させ、事業収益力を改善することが課題と考えております。そのために、2019年度からは、新しい経営体制のもと、施策を進めてまいります。株主のみなさまにおかれましては、なにとぞ倍旧のご指導、ご支援を賜りますようお願い申しあげます。

2019年5月

代表取締役社長 田中 達也